

JAL2014 公開ワークショップ参加者によるアンケート調査結果報告

1. アンケート調査の方法

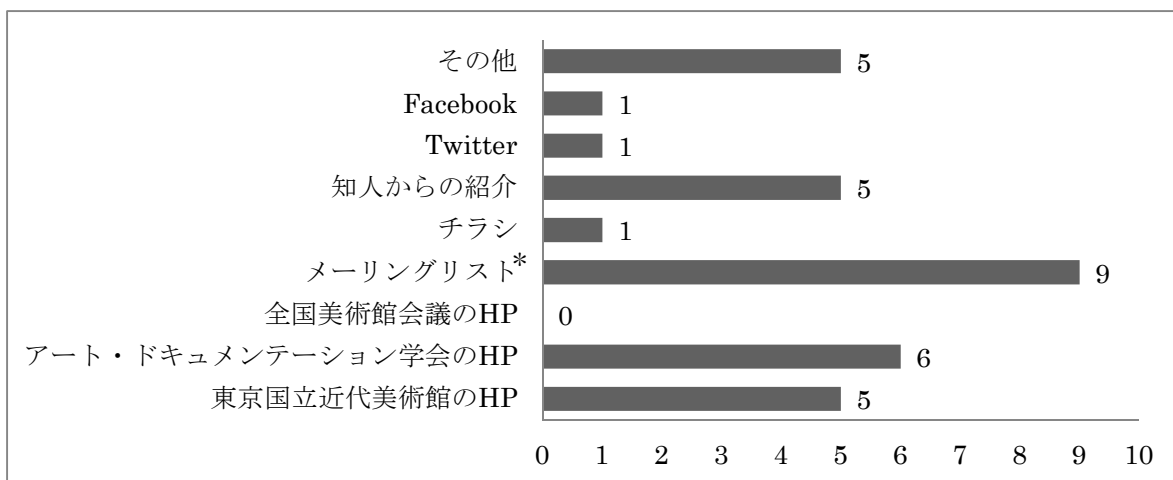
日時 2014 年 12 月 11 日(木) 10:30~17:00

場所 東京国立近代美術館講堂

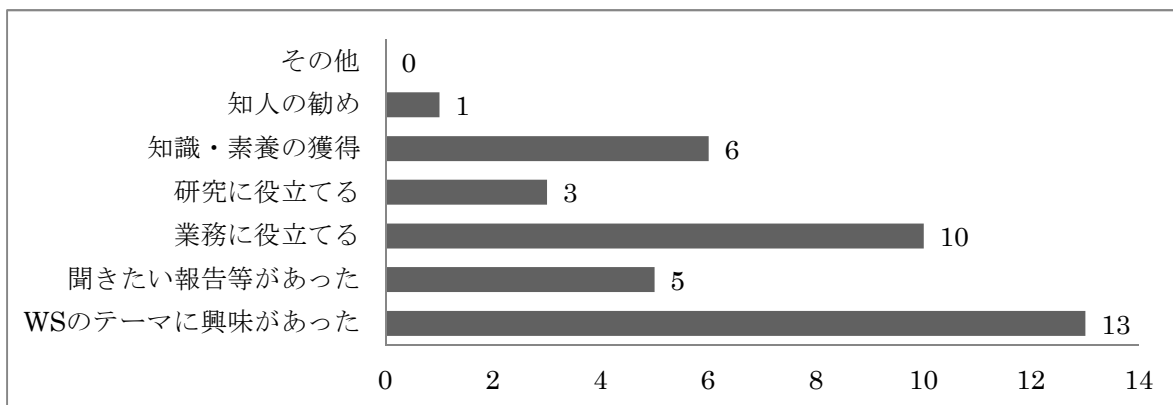
アンケート総数 22 件

2. アンケート詳細

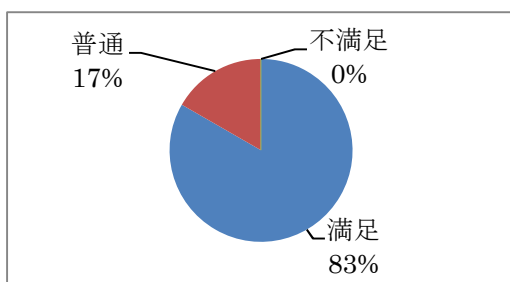
1) JAL2014 公開ワークショップについて情報の入手先



2) 参加の目的



3) 満足度



*メーリングリスト一覧

- ・ ALC
- ・ JADS-ML
- ・ MUSE-LIB

4) 興味・関心のあった報告

- 画像利用の話。データベース公開の必要性。全体的。
- 日本語で書かれた著書・論文については英訳の努力が必要であり、求められているという事。画像利用について、教育・学術目的か営利目的かの明確な区別が必要である事。日本では博物館、美術館の目的の一つである“公開”の部分がアメリカと比べると弱いという事。これらの海外から見た日本の状況がとても勉強になりました。
- それぞれの発表に興味を持ちましたが、特に岩瀬さん。当大学と関係のある平野さん。日本美術資料へのアクセスの検索ステップ。
- 「情報の収約化」という部分に関心がありました。一般の人間からの目で見えた意見ですが、, , 。現在の日本は情報が散らばっていると思われる中でも、私は国立国会図書館のリサーチナビは美術情報を知りたいときに大変使いやすいつ思っていたのです。ただ、今回、各国の情報収集用のツールの存在を学び、日本文化から生まれた資源の活用について、そして情報の収集と扱いについて自分なりにもっと考えてみようと考えを抱きました。本日はありがとうございました。
- 長谷川さん、吉村さんの翻訳の重要性についてのお話、岩瀬さんの教育に主眼を置かれた報告、藤田さんの日本の機関はビジョンが見えないという話、平野さんのイギリスの日本語の出来る美術司書の減少と **Korea Foundation** の話が印象的でした。
- 浮世絵のデジタル化。ホノルル美術館の春画展。長谷川さんの日本古典研究の重要性。平野さんのイギリスの日本研究者の実状。
- やはり翻訳の問題。

5) 意見・感想

- 日本の美術司書・アーキビストの海外視察（交換？）も行った方がよいと思う。見学先に、あらかじめ見学したい内容、質問等を事務局から送って欲しい（もっと良い対応が出来たと思う）。
- 研修先の研修内容を紹介し、日本における情報発信の実態をあらためて把握できるような報告が、実施する立場から必要ではないでしょうか？
- クレジット払いができない等の実務上の問題にフォーカスした会とか、美術に特化した問題なのか否かを比較するために、本棚の中のニッポン的な視点を盛り込むとか、あれば面白いかも知れません。
- 今後も事前申込不要の気軽に報告を開ける機会の提供を続けて下さい。訪問先に大学図書館も入れてみては？
- 招へい者の方からも提案がありましたが、日本の司書が外国の現場を体験できるようなプロジェクトがあれば、長い目で見て、日本の現場を変えて行くことにつながるのではないかと思います。
- 多くの発表者が自館の説明が大半の時間をさいて終わった。ハワイ（ホノルル）のように、リーフレットがあれば、それを配布してくれれば、説明は短くすむのかなと思った。発表スキル慣れにバラつきがあるとも感じた。
- とても重要な国家的事業だと思いますが、政府の理解がどこまで浸透しているのか？ともかく文化的なソフトな面は予算が削られがち、なげかわしい次第です。
- 事業の目的が出席前と後で異なることが分かりました。今回、日本美術専門図書館司書のレファレンスサービス向上に一つ重点を置いていたのでしょうか。来日前からネット上で事前のWSを担当者レベルで行うことも、JAL事業を更に充実させるのではと感じました。